



# 園だより ～きづき～

2024年度7月号  
キッドワールドサード保育園  
園長 是永妃富

梅雨本番。恵みの雨ととらえ、梅雨明けの知らせを待ちたいものです。

晴れの日には、泥んこ遊びや、水遊びをしている子どもたちの元気な声が聞こえてきます。

気温の変化が大きい時期は、子どもたちも体調を崩しやすいので、体調管理に気をつけながら見守っていきたいと思います。また、水分補給、休息などにも十分気をつけながら支援を行って行きます。家庭でも、「早寝・早起き・朝ごはん」などへ配慮していただき、この夏を乗り切る体力を養うよう協力もお願いいたします。

さて、プランターに植えている野菜ができています。トマトは色づけば、ピーマンはあと少し大きくなれば食べられそうです。収穫の日子どもたちの表情が楽しみです。



## 行事予定

- 1日 (月) 水遊び開始
- 5日 (金) セタのおはなし
- 11日 (木) 身体計測
- 13日 (土) お弁当日
- 18日 (木) 健康診断
- 26日 (金) 避難訓練

お弁当日は **13日(土)**です。

お弁当と食具を持たせてください。  
おやつと飲み物は園で準備いたします。

## セタ飾りについて



短冊に願いを込めて・・・

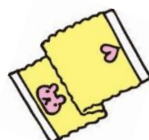
もうすぐセタです。星空がみられると良いですね。

サード保育園でもささやかながら、セタに向けて笹飾を作ってみようと思います。各ご家庭に1枚短冊飾りを配ります。お願いごとを書いて園にお持ち下さい。

## 安全運転でお願いします



・送迎時、駐車場の出入りの所で、スピードを出していませんか？  
小さな子どもたちが動いています。十分に気を付け、確認しながらの運転をお願いします。また、車を離れる際は、必ずエンジンを切って下さい、車の中にお子様を一人残すことのないようご注意ください。



名前がないもの、消えかかっている物には、記名をお願いします。



### 子育ての相談～ことば～

最近子育ての相談で、子どもたちの言葉にかかわる相談がとても増えています。なぜこれほど言葉にかかわる不安な事が起きているのかと考えることを考えると、そこには、「子どもたちの発達と環境」の問題が深く関係しているように思います。

ここでははじめにこどもの発達の問題と言葉について考えてみたいと思います。子ども達に言葉が生まれてくるためには、まず言葉の発声の基盤となる身体の発達が保障されなければなりません。私達の言葉は「呼吸(息)に乗せて声帯を震わせながら発声」されていますので、言葉がでてくるためには、最初に呼吸運動が十分に発達していなければなりません。つまり声を出そうとする時の吐く声帯で震わせ、そこで出た音を喉と口の中で増幅させて、周りの人にも聞こえるくらいの音声にするからです。そこでは肺から喉へ続く上半身の筋肉運動と口の周辺と舌の筋肉運動の発達がとても大切になります。分かり易くいうと「息をすること」と「食べること」の身体的機能が言葉の生まれる基盤になっているのです。



### ことばができるにはハイハイが大切

・子どもたちは1歳を過ぎる言葉が2語から3語くらい言えるようになりますので、それまでに腹筋を始めたとした上半身の筋肉や口の周りの筋肉が十分に育っていません。そのためには、この期の子どもの中心的な動きであるハイハイの動きがとても重要になります。最近では、このハイハイをあまりしないまま歩きだす子どももいると言いますが、ハイハイは呼吸活動とともに腕、腹筋、背筋方、首、顎などの筋力を育てるためには欠かせないものです。そのようなことも関連しているのでしょうか、ハイハイに問題のある子どもと「言葉の遅れ」との関係も指摘されるようになってきました。

埼玉県の斎藤公子さんが行っていたハイハイを取り入れた保育はハイハイと歌・リズム遊びを結びつけハイハイ遊びを楽しく展開し言葉の発達につまずきのある子どもたちの成長におおきな成果を上げたという報告がなされています。

なお、近年では、乳幼児期のハイハイが脳の発達を支える重要な役割をしているとも言われていますので、子どもたちにハイハイのできる環境を整えていただくと共にそのような情報を多くの人たちで共有して頂きたいと思います。



### ことばができるには環境が大切

もう一つ、言葉が育つ重要な側面として子どもの言葉を取り巻く環境の整備と言うことがあります。

子どもたちが話しをするときの事を考えると、まず話したい内容が子どもの頭の中に浮かんで来て、それを話したい相手に話しかけるというようになります。そのときに言葉は子どもの中に生まれます。そして、そこで生まれた言葉は子どもが話したい特定の相手に伝えるという言語活動として展開されるのです。つまり、「誰かに伝えたい内容(感動や発見、好きなことなど)が子どもの中に最初にあって」、「話したい相手(好きな人、わかってくれる人)がいる時」に、子どもは言葉が必要になります。したがって、話したい相手がいないと、子どもには言葉は生まれてこないのです。子どもたちに早く話をさせようと焦って、カードや写真やテレビで言葉をたくさん教えても、子どもの言葉は育っていかないのです。

このように子どもに言葉を育てていくためには、言葉だけを取り立てて教えるのではなく、まず「その子が人に伝えたいと思うような感動的な経過をたくさんすること」と「その子の気持ちがワクワクドキドキするような感動的なことをまわりの人と一緒に体験すること」が子どもの中に子どもの言葉を育てて行くことになるのです。周りの大人は、その子が今、興味・関心、をもって心を燃やしているものをしっかりと受けとめて、それに共感し、子どもと同じ気持ちになって、一緒に遊ぶということが言葉を育てるためには大切なことなのです。その遊びの中で大人が発する言葉が子どもに受けとめられ子どもの中に生き生きと蘇るとき、人間の言葉生み出されてくるのです。